





東ティモール「農業用水改善事業」3年次活動報告書

【事業概要】

事業名	農業用水改善事業
対象地域	東ティモール、エルメラ県アッサベ郡の4村内12集落
対象者	12の農民グループ(233名)と12集落内約4,217名(整備する水源の水を生活用水として利用可能な周辺農民)
事業規模	53,189千円(総事業規模:約134,104千円)
実施期間	2020年3月31日～2024年2月13日 *うち、2020年3月31日～同年10月31日の約7か月間は新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動休止 -1年次:2020年3月31日～2022年2月13日 -2年次:2022年2月14日～2023年2月13日 -3年次:2023年2月14日～2024年2月13日
主支援元	外務省、支援組織等
事業目標	乾季の水不足を農業用水設備の設置によって解消し、安定的な農作物の収穫を目指す。

【主な活動内容】

 <p>水源を保全し、貯水タンクおよび水路を造ります。</p>	 <p>点滴灌漑を設置することによって、農地で水を効果的に利用します。</p>	 <p>点滴灌漑設備を維持管理するため農民グループ内に水管理委員会を設置し能力強化を図ります。</p>	 <p>農民グループおよびコミュニティの人々を対象にジェンダー平等研修などを行います。</p>
--	--	--	--

【3年次の主な活動実績】

1・2年次に支援した12集落の農民グループへの各種フォローアップを実施。

▼2年次に農業用水設備を設置した7集落の農民144名(女性76名、男性68名)への支援を拡大

よりたくさん野菜を栽培できるように共同農地を拡大し、点滴灌漑設備を増設。また、畝を長くすることが難しく点滴灌漑に適さない一部農地にはスプリンクラーを敷設。これにより、計1,575㎡の農地で点滴灌漑から取水しながら、年間を通じて、野菜を栽培できるようになった。

▼12集落の農民グループを対象に、乾季の取水および土壌管理に関する振り返り研修を実施

雨季と乾季で異なる課題に取り組めるよう、また知識と技術の定着を目指して、開催時期を2回に分けて研修を実施。1回目には212名(うち女性105名)、2回目には196名(うち女性110名)が参加した。

同時に、複数の野菜の種子および鍬、苗床用ポットやネットなどの農具を提供し、作業の効率化を支援した。

[1回目] 農地の整備方法、野菜の植え方、輪作、水やり、除草、防虫、施肥の方法など

[2回目] 有機農法や防虫対策等についての座学後、コンポスト、有機液体肥料、有機農薬作りを実習。

▼水管理委員会メンバーを含む農民グループメンバー対象に、設備の維持管理に関する振り返り研修を実施

12集落において、点滴灌漑設備及び貯水タンクの保守点検と不具合があった時の修理の仕方を指導。研修には171名(うち女性99名)が参加した。また、研修最終日には今後の保守点検のためのアクションプランを策定。さらに、野菜の売上金の一部を修繕費のために充てること、また不足分は農民グループメンバーを含む集落住民で修理部品の購入費などを出し合うことを確認した。

▼修繕費の集金と管理に関する振り返り研修とフォローアップ指導を実施

農民グループの資金管理能力を高めるため、金額/数字の書き方(百の位まで)、収入と支出、記帳の仕方などについて4回にわたり振り返り研修を実施。農民グループによっては、文字や数字を書けるメンバーが数名しかおらず、メンバーでニーズや理解度が相当に異なるため、指導方法については個別対応を心掛けた。

【3年間の活動総括】

12集落に設置した農業用水設備によって、雨季乾季の季節に左右されない農業が可能に

CAREの支援により、野菜栽培を主目的とした農地面積は計2,700㎡(各集落ごと25m x 4.5mの農地に2つのビニールハウス敷設)と飛躍的に拡大した。結果、天水頼りの穀物中心の農業から、野菜を取り入れた農業への転換が図れた。3年次終了時点で、12の農民グループで点滴灌漑設備を整備した農地において、通年で98.5%の農民グループメンバーが野菜栽培に取り組んでいることを確認。また、標高や土壌の質といった農地の特性や地域での市場価値を考慮し、3年間にわたり様々な野菜を実験的に栽培し、栽培する野菜の種類を18種類にまで多様化することができた。

年間を通じた野菜栽培を通じて、収入の向上も実現

本事業の3年間では、通年で安定して野菜栽培ができるところまでをその事業範囲とし、収入向上までは含めていなかったが、学校への給食用食材の提供や地元市場での一部農作物の販売を行う農民グループが出現。自家消費用に留まらず、収入創出を意識した野菜栽培へと農民グループの意識が転換してきたことが伺える。結果、野菜栽培によって新たに収入を創出できるようになり、生業状況の改善への一歩となった。

女性農民の負担軽減とリーダーシップを強化

農業用水設備の設置によって、女性農民に負担が偏りがちな水汲みや水やり労働に費やす時間をゼロにすることができたことは、大きな成果である。さらに、研修やワークショップを通じて、ジェンダー平等、男女の公平な役割分担、女性の意思決定への参加や性別に基づく暴力予防のための啓発活動等を実施。これにより、女性農民のリーダーシップ醸成や男女の役割分担の見直しがなされ、女性農民がグループ活動において自ら意見を表明し、より主体的に活動に関わるという変化が生まれた。

【残された課題と後継事業について】

「農業用水改善事業」の成果を踏まえ、後継事業では、アッサベ郡の他集落にも同様の農業用水設備を整備し、乾季でも安定的に農業が行えるようにする。さらに、対象農民を市場に繋ぐことに注力し、野菜の販売を通して同地の零細農民の収入創出の機会を広げ、経済的な自立へと導く。

そして、マイクロファイナンスサービス等を活用した女性の経済的なエンパワメントにも重点的に取り組む。「農業用水改善事業」では、女性は農業にかかわる様々な活動で多くの役割を担っているにもかかわらず、重要な意思決定は男性に偏っている実態が明らかとなり、男女間の公平な役割分担についての啓発を行ってきた。後継事業においては、さらに取り組みを進め、女性の経済的なエンパワメントを通して、家計の意思決定に女性が主体的に関われるように支援を行う。

また、「農業用水改善事業」では、野菜を収穫しても、栄養や栄養を損なわない調理方法についての知識が不足していたため、自家消費において野菜の栄養が有効に摂取されていないことが課題として挙がっていた。エルメラ県の発育不全は全14県の中で一番高く63.4%、妊婦と授乳中の女性の中程度および重度の急性栄養不良は42.4%と非常に高いことから、後継事業では、栄養啓発にも注力し、野菜の適切な摂取を通して同地の食習慣の改善へと繋げる。特に妊婦や授乳中の女性と乳幼児が十分な栄養を摂取できるようにする。

後継事業の概要

- ・活動地域： 東ティモール エルメラ県 アッサベ郡
- ・事業期間： 2024年3月1日～2027年2月28日（3年間）
- ・事業規模： 総事業費：205,791,065円（うち外務省申請額：152,300,651円）（1ドル＝143.25515円）
 第1年次 60,382,913円
 第2年次 68,772,147円
 第3年次 70,636,005円
- ・主要支援者： 外務省（約85%）、その他資金（約15%）
- ・受益者数： 直接受益者 - 対象4集落で対象農民となるVSLAメンバーとその家族（約650人）
 間接受益者 - 農業用水の水を利用可能な対象4集落の住民（約2,810人）

【活動写真】



研修やワークショップに参加する女性メンバー



大きく成長した野菜を収穫する女性農民



実地研修も充実。有機液体肥料を作るメンバーたち



農民グループ間で相互の農地を訪問し、学び合いも



畑を耕す女性農民メンバー



女性農民リーダーによるスピーチ発表の様子

【受益者ストーリー】

ジョアニナさん (36歳女性)



「今では私たちは地元の市場で農産物を販売しています。農具が壊れたときには、私たちは共同で新しいものを購入するための資金を集めることができます。場合によっては、私たちは自分たちで設備などを修理する方法も知っています。私は、今、グループ農地の設備がちゃんと機能しているかどうか定期的に点検することに、全力で取り組んでいます。

このプロジェクトは、ジェンダー平等ワークショップや、パブリックスピーキング研修などを通して、私のような女性がリーダーになるための扉を開いてくれました。以前は、女性が人前で話す自信も機会もなく、ましてや農家グループを率いるなんて考えもしませんでした」

ベアトリスさん (66歳女性)



「以前、私たちの地域では、農業のために遠方の川まで水を汲みに歩いていかなければなりませんでした。私は、水でいっぱい重いバケツを、農場まで運ばなければなりませんでした。土地を耕し、苗を植え、その上さらに、作物に水をやるために長い距離を歩かなければならず、大変な労働でした。

でも、CAREによる支援のおかげで、一年を通して作物を植えることができるようになりました。農地には点滴灌漑システムが設置されており、今では、作物を植えるために遠くまで水を汲みに行く必要がありません。また、ビニールハウスが豪雨から作物を守ってくれます」

カリストさん (50歳男性)



「この活動に参加する前までは、野菜の栽培に苦労していました。適切な害虫駆除ができていなかったため、簡単に作物が害虫の被害にあっていました。さらに悪いことに、雨季には豪雨により、作物がだめになってしまうこともありました。

しかし私は、この活動への参加を通じ、徐々に、自分が経験した困難を克服できる希望の光を見だし始めました。

農家グループのメンバーは、作物を雨から守るために、ビニールハウスを設置しました。さらに、地元で入手可能な材料を使用して有機農薬を作る方法を学びました。これは、化学的な農薬が土地を破壊するのを防ぐための有益な知識として役立っています。

今では、以前より野菜を容易に栽培できるようになり、地元の学校に自身の農産物を売り、学校給食プログラムに貢献しています。過去に経験した困難にもかかわらず、今や野菜栽培に必要な知識を得て、一年中作物を育てることができています」